

研修視察 資料

平成17年5月120(木)

こくようせき

1、黒曜石体験ミュージアム

黒曜石は火山から噴き出した溶岩が急速に冷却されてできた天然のガラスです。割れ口が鋭く、加工しやすいところから、石器時代の代表的な石器の原料とされてきました。星糞峠の黒曜石はおよそ27万年前の火山でできたと考えられています。

霧ヶ峰高原は本州最大規模の黒曜石の原産地です。長門町鷹山の「星糞峠」には縄文時代の黒曜石鉾山遺跡があります。鉾山としては世界最古の発見です。また麓の帯には旧石器時代の石器加工場も発見されています。3万年前から「黒曜石のみち」をたどって全国各地に信州ブランドの黒曜石の石器が輸出されていたのです。その黒曜石のふるさと鷹山の、発掘調査が続けられている遺跡の中に、黒曜石体験ミュージアムがあります。

とがりいしじょうもんこうこかん

2、尖石縄文考古館

尖石遺跡は八ヶ岳西南山麓1070mの台地にあつて、縄文時代中期の代表的な遺跡です。昭和5年から発掘調査が行われ、多くの豪華な遺物とともに90軒近い住居址が発掘されました。縄文時代の学術研究の上で価値が高く、「特別史跡」に指定されています。その後の調査とあわせて184軒の住居址が確認されました。

隣の与助尾根遺跡は縄文集落研究の拠点として知られ、6軒の住居が復元され、史跡公園として整備されています。

尖石縄文考古館は、国宝土偶を中心に市内の遺跡から出土した遺物2000点を展示し、中部高地における縄文中期の文化の素晴らしさ「縄文王国」の名にふさわしい繁栄の姿をしのばせています。

じんちょうかんもりや

3、神長官守矢史料館

この史料館は、神長官守矢家が、洩矢の神と呼ばれたころから千数百年以上におよび、諏訪大社の祭祀全体を司ってきた関係の洩矢の祭祀の中心をなす託1怯び、諏訪大社の祭祀全体を司ってきた関係の洩矢の祭祀の中心を・なす御頭祭の飾り付けを菅江真澄の江戸期のスケッチに基づき恨元服示し、また守矢家に伝来する古文書などを展示してあります。

神長官守矢家が司る諏訪大社上社の祭祀のうち、最も大がかりで、そして神秘的なのは御頭祭です。この史料館では長期にわたるこの祭りのピークになっている前宮十間廊で行われる「神と人の饗宴」の供物の一部を展示しています。